

宮城県大崎市古川駅西側の建物被害

2011年3月14日時点の様子

大崎市古川駅西側で液状化被害が顕著であった地域のさらに西側の区画一帯では局所的に住宅の被害が甚大であった。駅側では、建物周辺の地盤沈下が見られたが、下図の地域の左側ではMHの浮上や路面の不陸などは確認できておらず、振動による被害が主であると考えられる。

高橋良和(京都大学)・後藤浩之(京都大学)・鎌田泰子(神戸大学)の調査による【文責・図面作成:鎌田泰子】

